

「死んだ教会」黙示録 3 : 1-6

3:1 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行いを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。 3:2 目をさましてなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行いが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。 3:3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさないければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたとどこに来るか、決してわからない。 3:4 しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。 3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。 3:6 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」』

導入

サルデスの町は、標高約 600 メートルの低い山の上であり、ヘルムス川の溪谷を見下ろす位置にあります。

羊毛産業の中心地で、羊毛の染色技術の発祥地と言われます。人々は贅沢な暮らしをし、町には不道徳な行ないが横行していました。

サルデスの歴史で注目すべきことがひとつあります。それは、この手紙からも読みとれますが、町が山頂という比較的安全な場所に位置することで、人々は漠然と安心感を持っていました。この町は安全だから大丈夫だと慢心し、夜警を置かなかつたことで、二度も町を征服されてしまいました。敵が攻めて来ないよう見張っていなかったからです。

この町の人々は、「目をさまして」いませんでした。

町全体に欠けていた事柄が、そのままこの町の信徒たちに欠けている事柄でもありました。サルデスの信徒たちは、霊の敵に対して目を光らせていませんでした。

今日は、この手紙をいくつかの部分に分けてお話していきます。

まず、イエス・キリストの描写が 3 章 1 節からあります。

次に教会の描写も 1 節からあります。

そして、死んだ教会に対する解決法が 2-3 節に記されています。

最後に、悔い改める信徒に対する報いと、悔い改めない信徒に対する罰が 3-5 節に記されています。

1. イエスの描写 (1 節)

ここしばらくの OIC の礼拝に来ている人は、イエスがそれぞれの教会への手紙の最初にご自身について語られていることに気づかれたことでしょうか。イエスはここでは、「神の七つの御霊、および七つの星を持つ方」と記されています。

神の七つの御霊という表現は、黙示録 1 : 4 ですすでに登場しました。

そこにはふたつの意味があります。まず、7 つの賜物を持つ聖霊を指します。これは、イザヤ 11 : 2 と関連があるでしょう。

イザヤ 11:2 その上に、【主】の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と【主】を恐れる霊である。

イエス・キリストに関するイザヤの預言には、7 つの側面があります。

1. イエスが神であられる。
2. イエスは知恵の霊を持っておられる。
3. イエスは悟りの霊を持っておられる。

4. イエスははかりごとの霊を持っておられる。
5. イエスは能力の霊を持っておられる。
6. イエスは知識の霊を持っておられる。
7. イエスは主を恐れる霊を示される。

イエスはサルデスの教会に対して、これらの7つの特徴とともにご自身について語られました。

これは、すべてのクリスチャンへの励ましです。私たちがこれらの7つの事柄で助けを必要とするなら、イエスのもとに行けばよいのです。

イエスは、すべての知識と知恵とはかりごとと能力を持つお方です。

しかし、このお方のもとに行くときは必ず、主への恐れを持たなければなりません。そのように恐れることは健全であり、神に対する敬意のあらわれです。

神の七つの御霊のもうひとつの意味は、7つの教会で主が等しく働いておられるということです。主の霊は7つの教会すべてにご臨在くださいます。イエスはすべての場所におられ、7つの教会すべてにおける出来事をご存じです。

つまり、七つの御霊はイエス・キリストの賜物が完全であることと、イエスが世界中どこでもご臨在くださるということです。

イエスのもうひとつの描写は、七つの星を持つ方です。

「星」は教会と教会にいる「御使い」を指します。

教会はイエス・キリストの「所有物」です。

イエスはマタイ 16:18 で「わたしは…わたしの教会を建てます。」とおっしゃいました。

教会はイエス・キリストに属します。このお方がご自身の血によって教会の代価を支払われたからです。

これまで30年以上神に仕えてきましたが、教会を自分のもののように勘違いしている指導者がいるのも事実です。そういう指導者は、聖書の教えに沿わない決断、クリスチャンにふさわしくない選択をしてしまうことがあります。非常に残念なことです。

教会はイエス・キリストのもので、そして、教会の信徒は皆イエスのしもべです。

OICは創立42年を迎えますが、真の運営者はイエス・キリストであり、私たちは皆、主のしもべです。

教会は、イエス・キリストのみこころや聖書の明らかな教えから離れた決断を決してすべきではありません。

イエスの望まれないことをするように聖霊がOICの指導者を導くようなことは絶対にありません。

むしろ、教会の指導者がイエスの模範に倣い、イエスが望まれることを行うよう励まされます。

2. 教会の描写 (1 節) — 死んでいる。

イエスは、この教会が生きているとされているが実は死んでいるとおっしゃいます。

生きているという評判はあっても実際のところは死んでいたのです。

新約聖書は、罪と死をしばしば関連付けます。

テモテ第一 5:6 には、「自堕落な生活をしているやもめは、生きてはいても、もう死んだ者なのです。」とあります。

ルカ 15:24 は、放蕩息子について、死んでいた子が生き返ったと語ります。

パウロは、救われた者も救われる前は罪過と罪との中に死んでいたと言いました。(エペソ 2:1,5)

ですから、教会が死んでいるとイエスがおっしゃったことは罪に関連しています。

スコットランドの聖書神学者は、罪深い行為を続けると3つの結末が待っていると語ります。ひとつめは、意志の死です。

罪の誘惑を長期間受け入れ続けると、それ以外のものを受け入れられなくなります。それがその人の悪癖となり、悪癖を断ち切ることができなくなります。

ふたつめは、罪は感情の死をもたらします。

人は、一夜にして罪の奴隷となるわけではありません。最初に罪を犯したときは罪悪感にさいなまれます。

しかし、その罪悪感が徐々に薄れていきます。

3つめに、罪は魅力の死をもたらします。

罪の恐ろしさは、魅力を醜さに変えてしまうところです。

愛は情欲と化し、最終的にはポルノへとつながります。

指導者の立場は、権力への執着と化し、その行き着くところは独裁です。

罪は、この世の魅力をすべて殺してしまうものです。

それがまさにサルデスの教会に起こったことでした。

最初うまく行っていたのですが、日常生活をしっかり注意して見張っていなかったせいで、徐々に罪の中で死んだ状態となってしまったのでしょうか。

3. 死んだ教会の対処法 (2-3 節)

この死んだ教会への対処法が3つあります。

悔い改めて、目をさまし、自分たちの信仰を思い出して強める必要がありました。

まず、悔い改めなければなりません。

これは私たちにもなじみ深い言葉です。神の目から見て私たちがしていることが間違っていることを示されて納得し、十分に反省してその行いをやめることです。

ルカ 15 章に登場する失われた息子は、十分に反省したので、古い生き方を捨てて父のもとに帰りました。

彼はお金で幸せを手に入れられると思いましたが、手に入ったのは不幸と破滅でした。

クリスチャンは誰でも、常に悔い改めの姿勢であるべきです。これは生き方そのものであり、救われたときに一度だけする行為ではありません。

次に、サルデスの信徒たちは悔い改めた後に「目をさまして」いる必要がありました。

クリスチャンは常に「目をさまして」状態でなければなりません。

新約聖書には、他のどんなことよりも頻繁に「目をさまさない」という言いつけが登場します。

ローマ 13:11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。

I コリント 16:13 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。

I ペテロ 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

マタイ 26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

また新約聖書は、目を覚ましてイエスの再臨を待つように（マタイ 24:42,43）、そして偽教師に対しても目をさましていなさい（使徒 20: 29-31）と教えます。

サルデスの町は二度も征服されました。それは、彼らが夜に「目をさまして」敵が来ないか見張っていなかったからです。

実話

約 800 年前にスコットランドで信じられないような出来事がありました。その出来事がきっかけで、スコットランドの国花が選ばれることになりました。

ノルウェー軍がスコットランド北部に侵攻した時の話です。

ノルウェー軍はスコットランドの王が住む城に奇襲をかけました。

夜眠るスコットランド人を起こさないようにと、ノルウェー軍の兵士たちはブーツを脱いで裸足で城への道をそっと歩きました。

しかし、彼らはスコットランドのあざみはどこにでも生えていて、とくに城へ続く道に多く茂っていたことを知りませんでした。

スコットランドのあざみは一見きれいな花ですが、その葉はとても危険です。葉にはすどいトゲが生えていて、刺さるとけがをして出血するほどです。

ノルウェー軍は夜中に城に近づこうとしましたが、この花を踏んで足をけがしてしまいました。兵士たちは痛みに叫び声をあげ、寝ていたスコットランドの兵士や看守を起こしてしまったと言います。

その結果、スコットランド軍は侵攻してきたノルウェー軍を倒すことができました。

野に生えている花のような些細なものがスコットランドの人々を救ったので、あざみはスコットランドの国花となりました。

現在、スコットランドを訪れると、あちこちであざみのシンボルを目にします。

このたとえば、小さなものがサタンの攻撃から私たちを守ってくれることを教えてくれます。小さなことに気をつけることで、サタンの巧妙な攻撃を最小限にとどめられます。

1. 携帯やタブレット、パソコンはじゅうぶんにフィルタリングを設定しましょう。そうすれば、不適切なサイトへのアクセスを防げます。
2. 祈ってもらえる人、すべて話せる人を必ず持ちましょう。私たちは皆、いっしょに祈って支えてくれる人が必要です。
3. 私たちにささやくサタンの声につけましょう。サタンは、私たちが神のみことばを疑うように仕向けたり、神のために最善を尽くそうとするのを邪魔したり、罪はそんなに深刻な問題ではないと吹き込んだりしてきます。

「目をさましている」とは、私たちクリスチャンにとって必要な自制心です。悪魔は巧妙で、わからないような小さなかたちで働き、私たちを神と神のみことばから、そして支えてくれる信徒仲間から引き離そうとします。

死んだ教会に対する 3 つめの対処法は、「思い出す」ことです。

ギリシャ語の原語では、「思い出し続ける」という意味です。

イエスは、彼らがどのようにして福音を聞いて受け入れたかを常に覚えてほしいと望まれました。

救われたときの体験や、喜んで福音を受け入れたことを思い出してほしいと願われました。

私が 25 歳でイエスのもとに立ち返ったとき、定年を過ぎた教会の長老が田舎にある小さな教会によく連れて行ってくれました。

長老は教会で説教をするのですが、私には、神の聖霊がどのように働いてイエスのもとに導かれたのか証するように勧めてくれました。私はその経験を涙なしに語ることはできませんでした。

もう 30 年間以上前のことになりますが、救われた証を詳しく分かち合おうとするといつも必ず涙が出てきます。

福音を初めて受け入れて、人生が変えられた経験を覚えているのはすばらしいことです。

私たちの信仰が正真正銘のものなら、そこには必ず分かち合える証があるはずで
イエスはサルデスの教会の信徒たちが罪を悔い改め、生活の中で目を覚まし、イエス・キ
リストが十字架上でなしてくださった御業をずっと覚えていることを望まれました。

結婚した日が人生最高の日だと思う人もいるようですが、暗闇から光へと移された日、罪の
中で死んでいた状態からイエスとの生きた交わりへと移された日こそが、私にとっては本当
に最高の日です。

自分の救いの証を A4 の用紙 1 ページに収まるくらいにまとめて書いておくのはよいアイデア
です。ときどきそれを読み返していれば、いつでも誰かに証する準備ができています。
弟子を作る弟子のコースが始まったら、全員にこれをしてもらいますので、今から始めてお
くのがよいと思います。1 ページに話をまとめるのはむずかしいかもしれませんが、とりあえ
ずやってみてください。自分の話の裏付けとして必ず聖書を引用しましょう。
どんな単純な証であっても、イエス・キリストの救いの力をはっきりと伝えることができます
。それに、私たちの証は私たち自身のたましいの励みとなります。

4. 最後に、悔い改めた信徒に対する報いと、悔い改めない信徒に対する警告です。(5 節)

勝利を得る者、つまり悔い改めた者は、白い衣を着せられ、その人の名がいのちの書から消
されることはないと記されています。

悔い改めた罪人にはこれは良い知らせです。では、どういう意味でしょう。

白い衣とは何を指しているのでしょうか。

ヨハネがこの書を書き送った古代の社会では、白い衣は祝祭を意味しました。

(伝道者 9 : 8)

白い衣は、信仰を守り抜いた客が、神の小羊であり偉大なる神であるお方の婚礼の大宴会に
招かれることを意味しているのかもしれませんが。(黙示録 19 : 17)

また、古代社会で白い衣は勝利を意味しました。人々は、戦いに勝つと、白い衣を着て勝利
を祝いました。

ですから、彼らの勝利が報われることを意味しているのかもしれませんが。

白は、きよさの象徴でもあります。マタイ 5 : 8 は、「心のきよい者は幸いです。その人た
ちは神を見るから。」と語ります。

これらの解釈から、ひとつだけを選んで正しいとする必要はありません。というのも、これ
らはすべて救いの神学に含まれる内容だからです。

悔い改めた者へのふたつめの祝福は、その人の名がいのちの書から消されることはないとい
う約束です。

いのちの書は、旧約聖書にも新約聖書にも何度も登場します。

モーセは出エジプト 32 : 32-33 でこれについて触れました。

出エジプト 32: 32-33

32:32 今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら――。しかし、もしも、かないませ
ん
なら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってくださ
い。」 32:33 すると【主】はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わ
たしの書物から消し去ろう。

詩篇 69 : 28 にも記されています。

詩篇 69:28 彼らがいのちの書から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることがあり
ませんように。

また、ダニエル 12 : 1 にも記されています。

ダニエル 12:1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。

パウロとともに神に仕えていた働き人たちの名もいのちの書に記されています。

(ピリピ 4 : 3)

ですから、天国に入ることのできる信徒ひとりひとりの記録を神がお持ちであることがわかります。

今日、私たちに対する課題は次のとおりです。

「私たちの名はいのちの書に記されているでしょうか。」

私たちは罪を悔い改めたでしょうか。

もしそうなら、天国の祝福は私たちのものです。

最後に、悔い改めない者への警告です。

イエスは夜の盗人のように来て裁くとおっしゃいます。

いのちの書に名が記されていない人は、火の池に投げ込まれると聖書は教えます。

(黙示録 20 : 15)

神に助けをいただいて、私たちが常に悔い改める人でいますように。